

図2-① 65歳男性の平均自立期間の推移(千葉県)

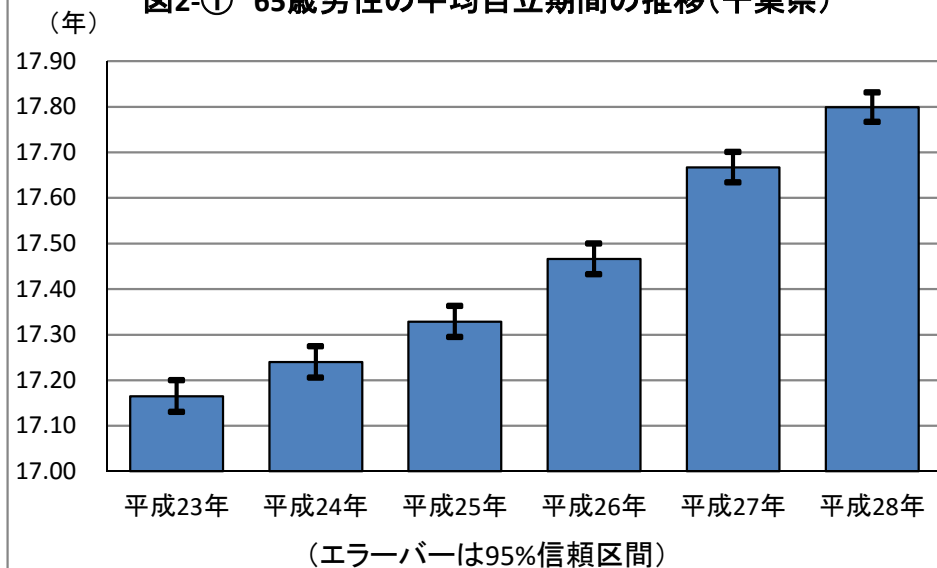


図2-② 75歳男性の平均自立期間の推移(千葉県)

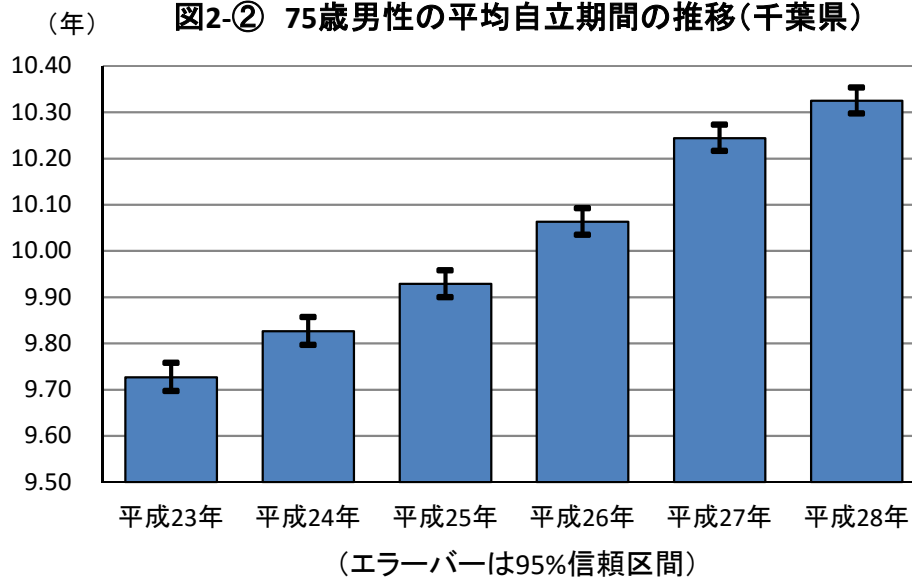


図3-① 65歳男性の平均要介護期間の推移(千葉県)

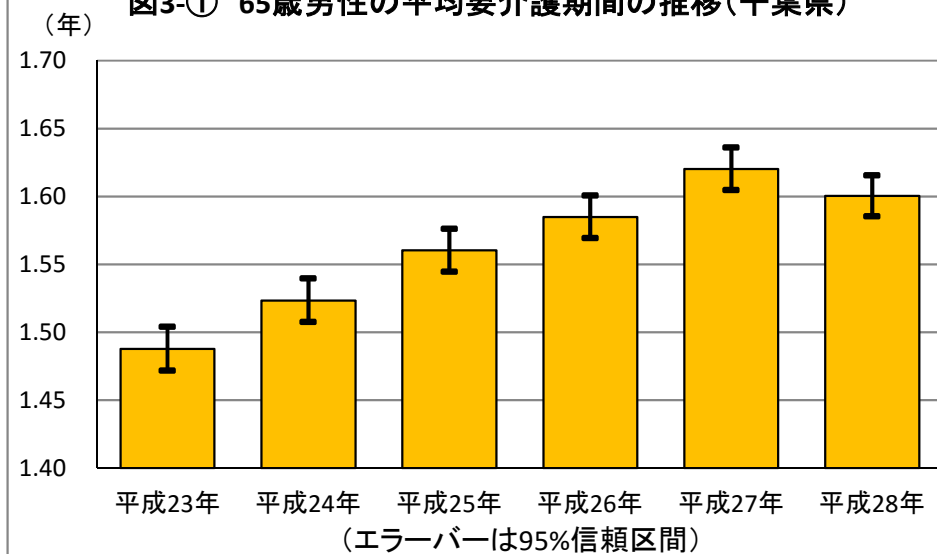


図3-② 75歳男性の平均要介護期間の推移(千葉県)

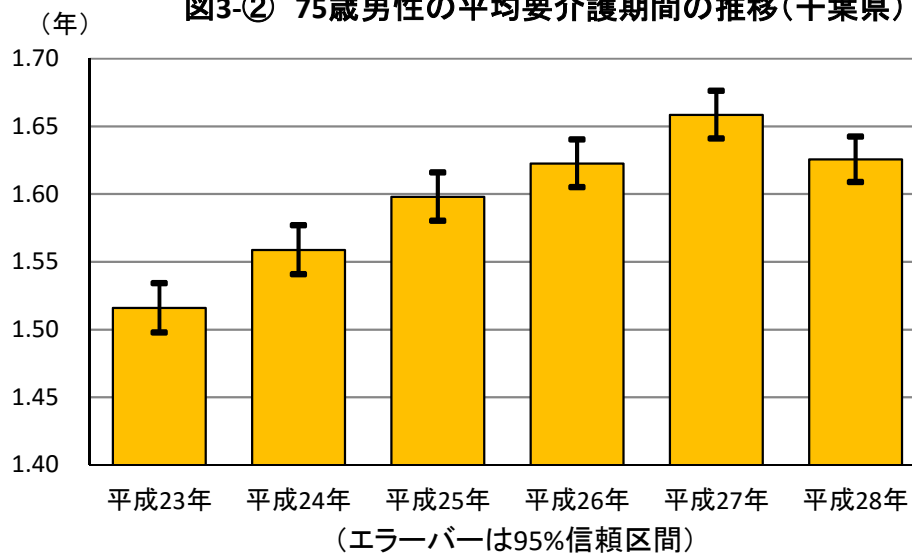


図2-③ 65歳女性の平均自立期間の推移(千葉県)

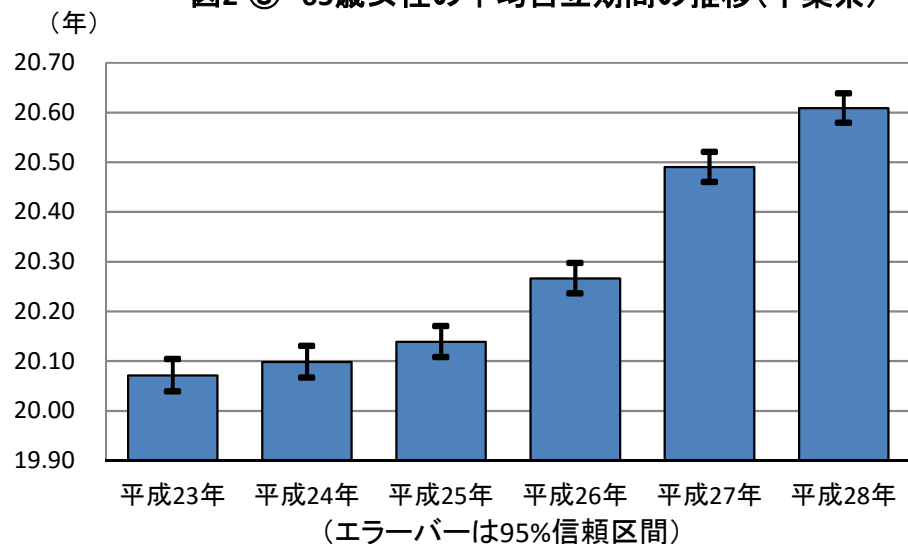


図2-④ 75歳女性の平均自立期間の推移(千葉県)

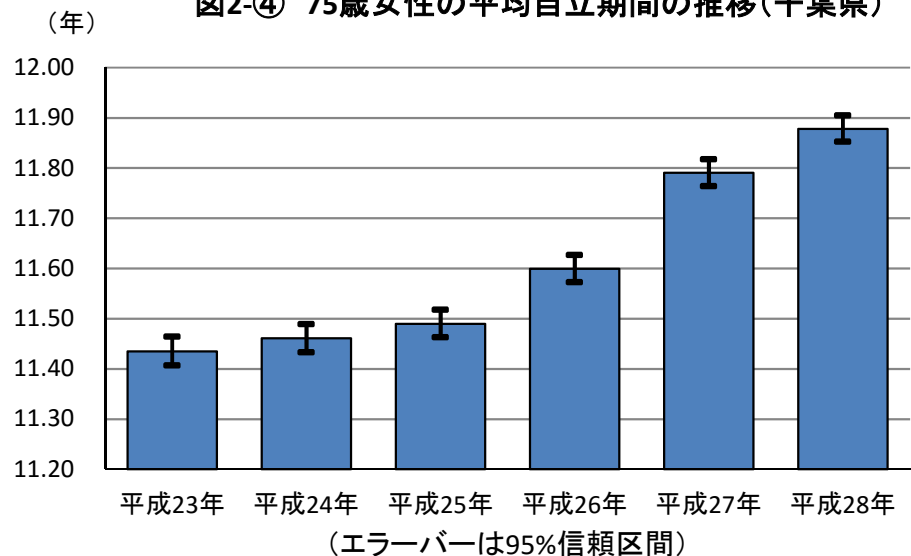


図3-③ 65歳女性の平均要介護期間の推移(千葉県)

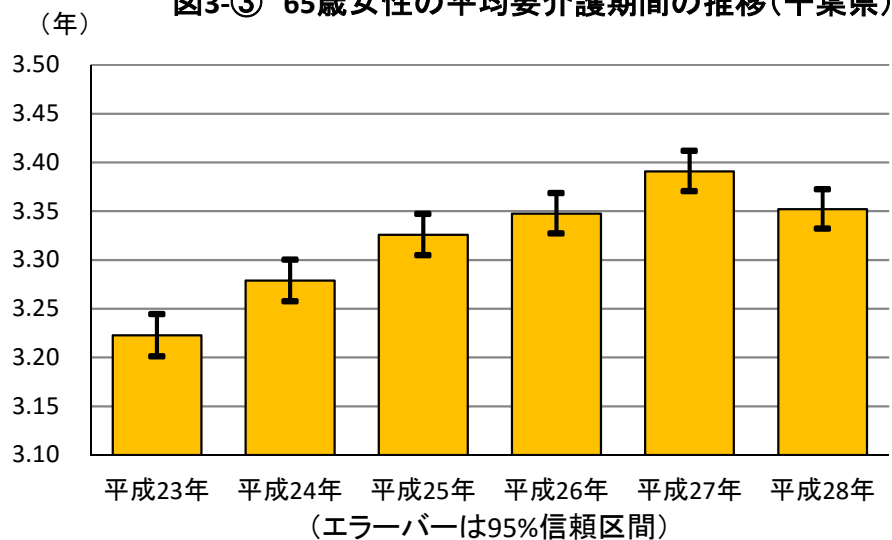


図3-④ 75歳女性の平均要介護期間の推移(千葉県)

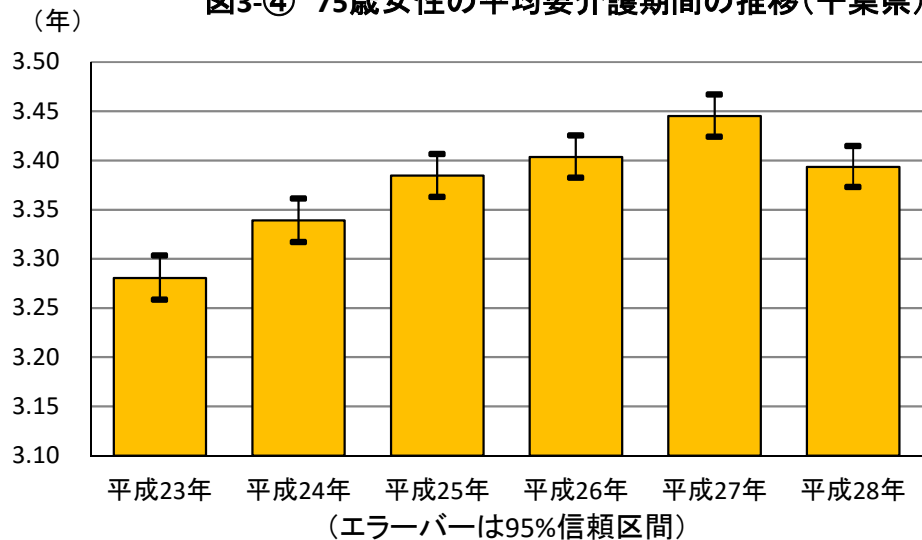


図4-① 平成23年～28年の平均自立期間と平均要介護期間(65歳)

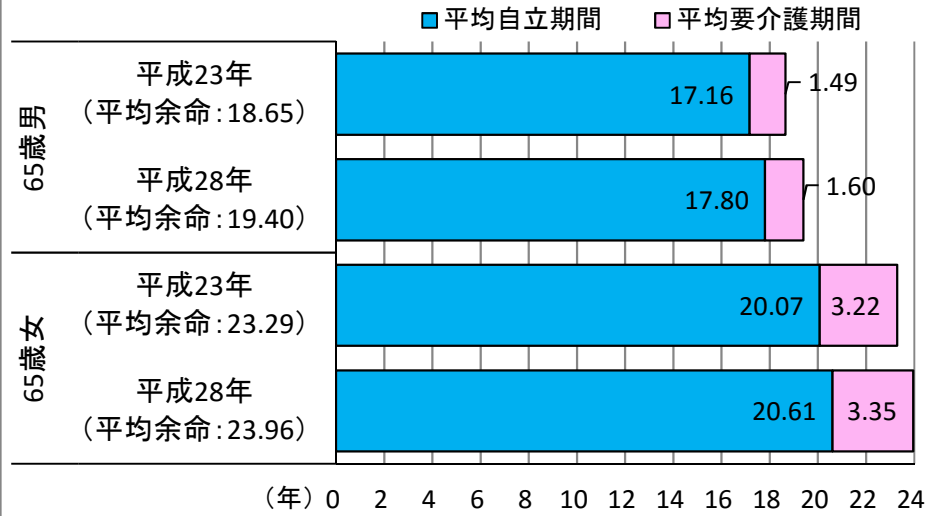


図4-② 平成23年～28年の平均自立期間と平均要介護期間(75歳)

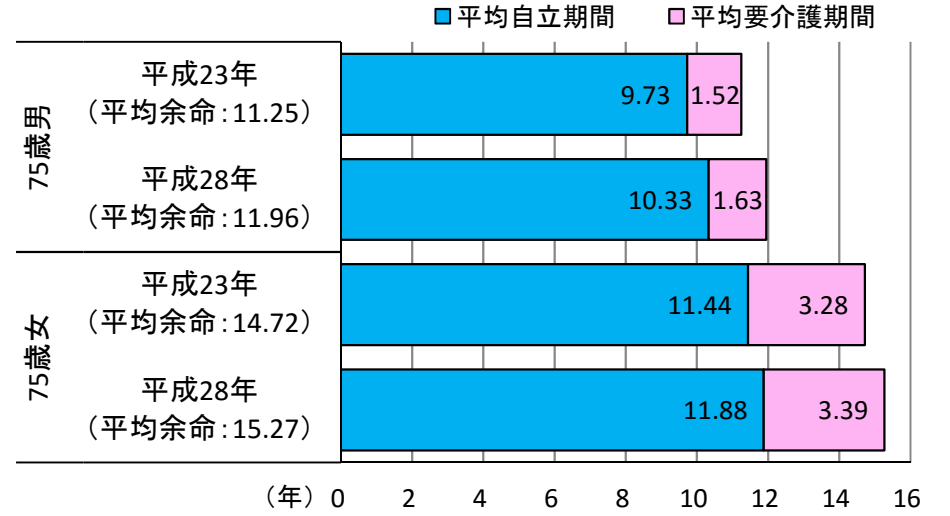


図5 平成23年～28年の平均自立期間と平均要介護期間の伸び

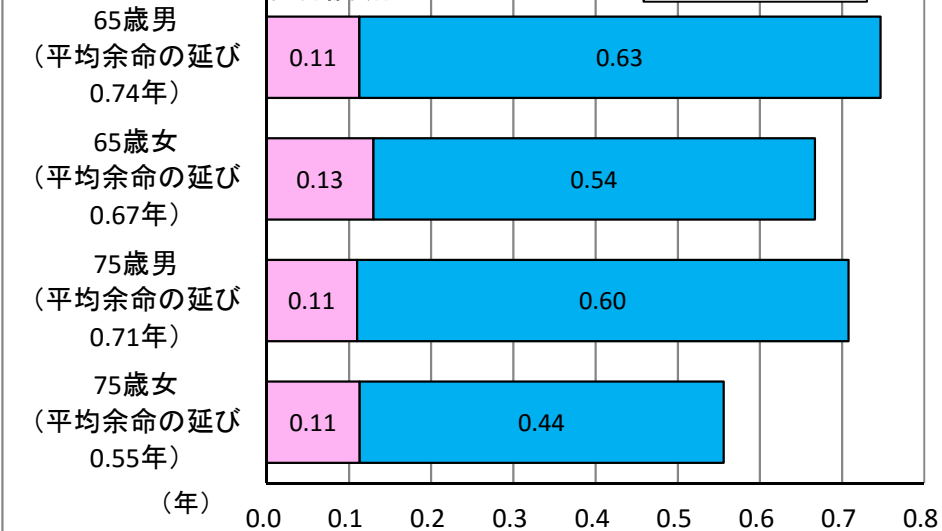
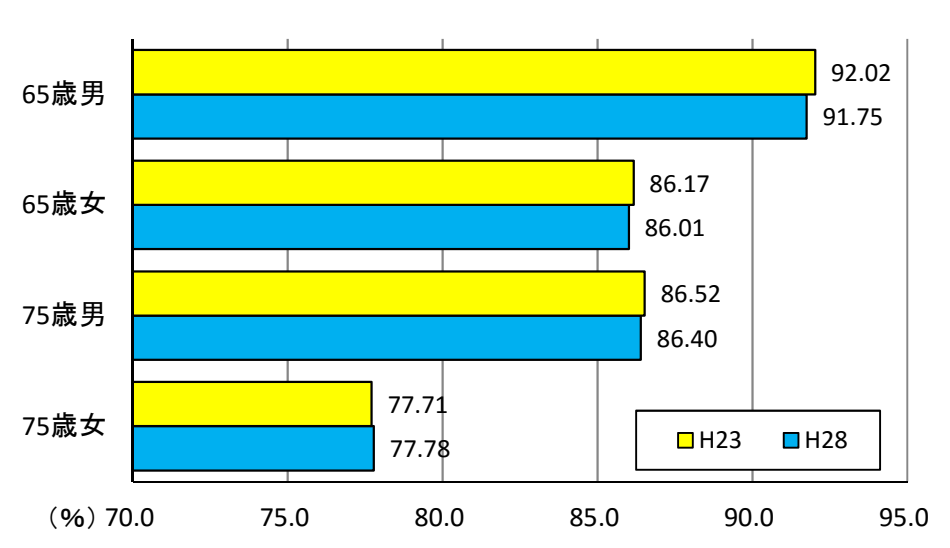


図6 平成23年と28年の平均自立期間の平均余命に対する割合



・平均自立期間の市町村間格差(最大値と最小値の差)を平成23年と平成28年で比較すると、格差が男性65歳では0.47年、75歳では0.30年減少した。女性では65歳で0.69年、75歳で0.55年減少した。平均要介護期間の市町村間格差は、男性は65歳は0.02年減少したが、75歳では0.02年増加した。女性は65歳は0.15年、75歳では0.04年増加であった。(表1、2、図1)

・千葉県の平均余命・平均自立期間・平均要介護期間は、平成23年から28年の5年間で男女とも有意に延伸している。平均自立期間の伸びは男女とも平成26年～27年にかけて一番大きかった。平均要介護期間は平成27年～28年にかけて男女とも減少した(図2、3)。

・千葉県の5年間の平均自立期間の伸びの男女差は、65歳で0.1年、75歳で0.16年男性が大きかった。一方、5年間の平均要介護期間の伸びの男女差は、65歳で0.02年女性が大きかったが、75歳では同じであった(図4、5)。

・千葉県の平均余命の伸びに対する平均自立期間の伸びを計算すると、男性は65歳85.1%、75歳84.5%、女性では65歳80.6%、75歳80.0%となり、男女とも平均余命の伸びは平均自立期間の伸びの寄与が大きかった。(図5)

・千葉県の平均余命に対する平均自立期間の割合は、平成23年より平成28年の方が男性は65歳0.27%、75歳0.12%、女性は65歳は0.16%減少したが、75歳は0.07%減少した(図6)。